

## ILSI Japan 活動報告&lt;82&gt;

【部会・分科会活動報告】 2020年5,6月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗なし</li> </ul> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術交流会の開催はコロナの状況を鑑み検討中</li> </ul> <p>(3) チルド勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組み中の2つの活動（ボツリヌス菌制御に関する活動、耐熱性試験法検証）について素案作成中</li> <li>・素案確認のためのリーダー打ちは7月以降に再延期した。</li> </ul> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗なし</li> </ul>
	食品リスク研究部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規活動「"A Natural Mistake: Why natural, organic, and botanical products are not as safe as you think" (Dr. Jim MacGregor 著)」の情報発信として、書籍の翻訳を検討。部会メンバーで分担して、翻訳（案）を作成、林真先生、森田健先生の指導の下、年内を目処に推敲を繰り返し、翻訳を完成させる。</li> <li>・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」の報告書について1次案を作成、次回（7/10）部会にて協議する。</li> <li>・国衛試安全情報部長・畝山智香子先生による食品中化学物質のリスク分析、リスクコミュニケーションに関する講演会を7/10開催予定。</li> </ul>
	香料研究部会	特に進捗なし
A A T プ ロ ジ ェ ク ト	概要	<p>国際WSとシンポの同時開催および2つの研究テーマ推進を3本柱とするWG活動を、国立衛生研、AI-SHIPS、NITE等の多数のアカデミアや学会、およびアジアやEUのILSI支部と連携しながら進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会議を開催（6/2）。各WGの進捗と今後の活動方針・計画を共有し、承認した。さらに、AI-SHIPSコンソーシアムへの参加、ケースレポート作成を推進する新WGの設置、今秋に横浜にて開催で準備を進めてきた国際WS&amp;シンポジウムの1年延期を決定した。</li> <li>・国際WSの日本側プログラム委員会を開催し（6/17）、1年延期を正式に決定すると共に、来秋の開催に向けた活動計画について合意した。</li> <li>・日本毒性学会（6/29~7/1@WEB開催）にてプロジェクトの活動内容を発表した。</li> </ul>

<p>2020 国際ワークショップ (ILSI Europe 協働)</p>	<p>【概要】 食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として国際 WS を限定公開 (AAT 関連メンバー等) にて、さらに国際シンポ (公開) を同会場で開催する。なお、2020/10/22~23 に横浜で開催予定であった国際 WS 及びシンポを 1 年延期すること決定し、延期に係る作業を行った。</p> <p>【進捗】 国際 WS 及び国際シンポが延期されることが正式に決定したのを受け、演者・座長の招聘者及び招待者に対して延期連絡案内の送付、会場・宿泊・同時通訳のキャンセル、再度開催会場の選定作業を開始した。なお、WS-Statement 案作成と安全性/機能性評価戦略の検討は継続した。また、論文投稿先及び原稿作成方法を決定し、投稿先編集部との協議準備を開始した。</p>
<p>腸管吸収 WG</p>	<p>【概要】 動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬科大学 山崎研究室の動態予測 (計算) モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】 受動拡散か否かの <i>in silico</i> 予測を含めた、食品成分のヒト血中動態予測フロー (案) および今後の検討の方向性を 6/2 の定例会で報告し、大枠について承認を得た。</p>
<p>データベース WG</p>	<p>【概要】 毒性文献等を活用した反復投与毒性を予測する手法の活用。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】 データを収集する食品成分について、140 化合物の情報収集を実施中。現在、被験物質投与に起因した変化が確認される論文約 50 種について精査を実施中。データを搭載する化合物は 50 種を予定しているが、毒性が認められるものだけでは数が不足する可能性があるため追加検討実施中。食安委助成テーマの一部として推進するため、テーマの先生方と今後の具体的な進め方について議論し、合意した。</p>
<p>定期会議</p>	<p>・ 6/2 にプロジェクト全体会議を開催 (WEB 開催) 参加者：会員 12 社 29 名、中江先生 (アドバイザー)、事務局 2 名。 ・ 次回全体会議は 9 月上旬で調整中。</p>
<p>バイオテクノロジー研究会</p>	<p>1. 2020 年 6 月 3 日に臨時幹事会を開催 (リモート会議) (1) COVID19 下 ERA 報告書および官庁訪問の在り方について ➡ No.50 号報告書は郵送および電話で説明対応。中長期的にも状況を鑑みリモート会議でも対応ができるのかを確認する。 ERA 集約版は、上記官庁との最善なコミュニケーション方法が判明した後 (8 月) 送付することとする。</p> <p>(2) ILSI RF の ILSI 脱退、Agriculture &amp; Food Systems Institute (AFSI) 設立に対する当研究会としての対応 背景概要：2020 年 5 月に RF は ILSI 脱退、AFSI を設立。 当研究会はこれまで RF と多くの WS で関わってきた。 ➡ 当研究会として、AFSI 代表と ILSI Federation と合意した Talking Point を規制当局に伝えることとした。</p> <p>2. 2020 年度 第 3 回目会議を 6 月 22 日に開催 (リモート会議) (1) ERA プロジェクト調査報告書 ・ 第 51 号の勉強会：10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 (2) ILSI ERA 勉強会 (隔離ほ場試験データトランスポートビリティ</p>

		イについて ) ・当勉強会の WG の活動 (5/20, 6/10) の報告がなされた。 -開催日 : 2020 年 10 月 8 日に決定 -目的 : 遺伝子組換え作物の安全性、環境影響評価に関する科学的な知見を情報提供し、さらなる科学的なリスク評価の発展に貢献 -規模 : 100 人程 <b>(3) 6 月 3 日開催 臨時幹事会 概要報告</b> <b>(4) 会計報告</b> ・予算進捗を確認した。 <b>(5) その他</b> ・副会長交代 : 協和発酵バイオ(株)森下氏から川田氏に交代
栄養健康研究会	栄養研究部会	栄養研究部会 (研究テーマ、活動方法) についてのアンケート調査実施
	GR プロジェクト	特に進捗なし
	茶類研究部会・茶情報分科会	特に進捗なし
健康な食事研究会	ワーキンググループ 1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築	特に進捗なし
	ワーキンググループ 2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握	「イルシー」誌 143 号に論文 (表題 : ILSI Japan 健康な食事研究会 WG2 食の外部化を担う企業、特に中食企業における健康、栄養の意識の実態 2017 年～2019 年活動報告) を投稿した。
	ワーキンググループ 3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証	「イルシー」誌 143 号に論文 (表題 : ILSI Japan 健康な食事研究会 WG3 健康な食事の社会実装 2017 年～2019 年活動報告) を投稿した。
	研究会全体	第 8 回「栄養とエイジング」国際会議の発表内容をプロシーディングスとしてまとめ、Nutrition Reviews のサプリメント版に掲載すべく準備し、投稿した。
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	◇ テイクテン (TAKE10!®) ～元気で長生きのための運動・栄養プログラム～ 地元住民が参加して制作したテイクテン紹介の VTR が新型コロナウイルス感染拡大下の運動不足対策として、吉賀町、津和野町のケーブルテレビで、3 月から継続して放映されている。
	Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト	◇ 栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 委託事業 ・運営委員会にてインドネシア、カンボジア、ミャンマーの各プロジェクトの報告を行った。(6 月 24 日) ・NJPPP 委託事業のミャンマーでの取組み (工場食の栄養改善および栄養教育) をもとに、ILSI と協働でプロジェクトを進めているワールド産業が JICA 中小企業支援案件化事業に応募 (ILSI は外部人材として参加)。
	CHP 全体	5 月に開催予定であった栄養食糧学会におけるシンポジウム「食品摂取の多様性と健康～行動変容のための革新的アプローチ～」の内容について、今秋発行予定の「イルシー」誌 144 号に掲載することとなった。
国際協力委員会		オンライン委員会開催 : 2020 年 5 月 25 日 (木) 15:00～17:00 <b>【議題】</b> 1. 第 12 回 BeSeTo 会議テーマの選定

	<p>2. 日添協秋季講習会発表資料の中身精査</p> <p>3. 食品産業コーデックス対策委員会からの情報共有</p> <p>4. “Review of Nutrition Labelling, Nutrition &amp; Health Claims Regulations in Asia” (ILSI SEAR)の Personalized complimentary copy20 部送付先の選定</p>
情報委員会	<p>栄養学レビュー</p> <p>●28-3号 通巻108号 (2020年5月発刊予定)</p> <p>対象誌：NR77(8)-77(10)</p> <p>編集会議 11/22 4報採択⇒OUP承認 ⇒⇒4/6 再校⇒4/17 OUP 日本語版承認取得 ⇒4/18 入稿 ⇒5/10 付発刊済み</p> <p>●28-4号 通巻109号 (2020年8月発刊予定)</p> <p>対象誌：NR77(11)-78(1)</p> <p>編集会議 2/17 4報採択⇒4報とも翻訳者確定 ⇒4/24 OUP 選択論文承認取得⇒4報とも翻訳原稿受領 ⇒4報とも5月末までに監修原稿受領⇒6/17 初稿 ⇒6/25 再校⇒翻訳者向け feed back 中 7/6 再校時打合せ予定 7/7 印刷入稿、7/14-21 頃色校正、平行して OUP 承認取得</p> <p>●29-1号 通巻110号 (2020年11月発刊予定)</p> <p>対象誌：NR78(2)-78(4)</p> <p>編集会議 5/11 5報採択 ⇒5報とも翻訳者確定 (翻訳依頼済み) (スケジュール：翻訳締切=7月末、監修締切=8月末)</p> <p>●29-2号 通巻111号 (2021年2月発刊予定)</p> <p>対象誌：NR78(5)-78(7)</p> <p>対象英文誌は公開済み⇒抄録翻訳中</p> <p>●次回編集会議 8/11 (火) 16時～ (仮決定) 通巻111号 (2021年2月発刊予定) 掲載論文選定</p>
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イルシー」142号発行</li> <li>・「イルシー」143号、144号編集</li> </ul>

## 【事務局からのお知らせ】

理事会	開催なし。
事務局	特になし。